

## 【応募用紙】

提出いただいた応募書類（規約・会則等、役員名簿、収支書類を除く）は、活動内容紹介のため、ホームページ上に公開します。**応募用紙・補足資料に個人情報に記載しないようご注意ください**

### 1. 応募者概要

氏名または団体名	(ふりがな: かいそうおしぼきょうかい かながわしゅ ) 海藻おしぼ協会 神奈川支部		
代表者の役職・氏名 (団体の場合)	(ふりがな: かいそうおしぼ きょうかい かながわ しゅちょう たかやま まさみ ) (役職) 海藻おしぼ協会 神奈川支部長 (氏名) 高山 優美	会員数 (団体の場合)	(令和3年4月現在) 全国: 70名 神奈川支部: 7名
ホームページアドレス	Kaisou048@jp	活動開始年月	・平成15年7月
活動分野 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 川・海・水                      2 緑・樹林                      3 農業 <input type="checkbox"/> 3R <input checked="" type="checkbox"/> 環境教育・学習 <input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性 <input checked="" type="checkbox"/> 地球温暖化対策                      8 その他 (                                      )		
環境に関する主な活動内容 (審査対象となる環境活動・取組を簡条書きで記入。行を適宜追加して下さい)	環境に関する主な活動内容 (例) □□の美化・清掃活動、○○の生き物調査、植樹活動、△△の環境教育、食品ロス削減、地産地消 など	※ (もし該当がある場合は、SDGsの目標番号を記入してください)	
活動地域 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 横浜市 (                      ) 区 <input checked="" type="checkbox"/> 横浜市全域 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 茅ヶ崎市・藤沢市・大磯町                                      )		
活動の目的やねらい	地球温暖化が進む中、ブルーカーボンとしての海の森(藻場)の大切さが危惧されています。「光はごはん、海を濁さないで」をスローガンに、海の森の大切な働きを啓発しています。		
過去に受けた表彰および受賞年度	(例) 横浜□□賞 (平成○年度) なし		

※SDGs (持続可能な開発目標) を達成するための活動の中で、環境の保全や環境教育など、環境に関する活動は応募対象となるため、参考までに御記入いただくものです。該当しない場合は記入不要です。

## 2 最近3年間の主な活動

※「1 応募者概要」の「環境に関する主な活動内容」について、最近3年間の主な活動内容を記入してください。

	活動・取組・イベント等の名称 発行した印刷物等の名称	参加人数、発行部数等	詳細内容
令和元年度	・横浜市温暖化対策統括本部「クールチョイス横浜エコ新発見」	24名	・横浜市温暖化対策統括本部主催の温暖化啓発イベントにて、地域で温暖化対策の普及啓発を実施している団体として、体験して学べるブース（海藻おしばづくり）を出展
	・横浜市環境教育出前講座「戸塚エコフェスタ2019」	48名	・エコを体験するイベントに「海藻おしばカードづくり」体験ブースを出展
	・横浜市環境教育出前講座「横浜ガーデンアカデミー学童」	64名	・地球温暖化と海の森の大切さを啓発する海藻おしばづくりの体験講座とハガキ1枚のおしばづくり実技の開催
	・横浜市環境教育出前講座「図書館 de YES」	9名	・横浜市金沢図書館で地球温暖化と海の森の大切さを啓発する海藻おしばづくりの体験講座とおしばづくり実技の開催
	・横浜市温暖化対策統括本部2019ITU世界トライアスロン	40名	・山下公園特設会場で地球温暖化対策の普及啓発を実施している団体として体験ブースを出展
	・横浜市温暖化対策統括本部「2019横浜うみ博」	32名	・横浜大さん橋ホールでの地球温暖化啓発イベントとして海藻おしば体験ブースを出展
	・横浜市環境教育出前講座「東品濃小学校キッズクラブ」	40名	・地球温暖化を啓発するプログラムとして「海の森の大切さ」を啓発する講座と実技の開催
令和2年度			★コロナ感染症拡大のため予定催事活動は出来ませんでした
令和3年度	・横浜市環境教育出前講座「図書館 de YES」	10名	・保土ヶ谷区保土ヶ谷図書館で地球温暖化を啓発として海藻おしばづくり体験教室（講座と実技）を実施
	・横浜市環境教育出前講座「井土ヶ谷小学校放課後学童クラブ」（横浜市南区）	20名	・地球温暖化と海の森の大切さを啓発する海藻おしばづくりの体験講座と実技の開催
	・横浜市環境教育出前講座「どんぐり学童クラブ」（横浜市神奈川区）	20名	・地球温暖化と海の森の大切さを啓発する海藻おしばづくりの体験講座と実技の開催
	・横浜市環境教育出前講座「金沢区能見台小学校」	33名	・地球温暖化と海の森の大切さを啓発する海藻おしばづくりの体験講座と実技の開催

※ 現在活動休止中の場合でも、今後継続して取り組む見込みがある場合は応募の対象とします。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、現在活動休止中の場合には、「詳細内容」の部分にその旨を御記入ください。

### 3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
自治会・町内会との関わり		
学校との関わり	・横浜市環境教育出前講座	・横浜市内の学校からの講座申込によって、出前講座を実施する
他の市民団体との関わり	・韓国の市民団体	・韓国ソウルの「プレス・フラワー協会」（代表:李氏）との交流で、韓国における地球温暖化啓発と海の森の大切さの訴求を図る準備をしている
企業等との関わり		
行政との関わり	・横浜市環境教育出前講座	・横浜市内の学校からの講座申込によって、出前講座を実施する ・ヨコハマ・エコ・スクール（YES）脱温暖化行動講座補助金（横浜市温暖化対策統括本部調整課）
その他、環境以外の分野との関わり		

#### 4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機

※立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

※個人の方は、活動を始めたきっかけについて記入してください。

##### ●海藻おしばの誕生は 筑波大学下田臨海実験センター

静岡県下田市にある筑波大学下田臨海実験センターで海藻の生理生態学の第一人者の横濱 康継教授（故人）とその研究補助を務めたグラフィックデザイナーの野田三千代が、従来の学術標本の域を超えた、美しい海藻おしばを創案。誰にでもできる海藻おしばづくりと、海の森のお話をセットにすることで、環境学習ワークショップとしての「海藻おしば教室」を今から40年前に立ち上げました。

2004年に海藻おしば協会を設立。（会長 野田 三千代/支部として北海道支部・北陸支部洋・東京支部

・神奈川支部（支部長:高山 優美）・静岡支部・関西支部・四国支部・中国史部・九州支部がある。

現在会員約70名、認定講師ならびに実技認定講師として17名。

またサポートを頂いている藻類学関係の大学授受など15名が登録されています。

最近では、国内外を問わず活発な協会活動を継続し、2023年には協会創立20周年を迎えます。

##### ●海藻おしば協会 会長：野田 三千代としての受賞歴

###### ■環境大臣特別賞受賞

平成22年岐阜県・関市で開催された第30回「全国豊かな海づくり大会」で、「海藻おしば教室」を長年にわたり継続し、海の自然環境の大切さを啓発してきた野田 三千代が「環境大臣特別賞」を受賞しました。

###### ■日本自然保護協会沼田眞賞受賞

自然環境保全に貢献した個人・団体に贈る2013年第12回沼田 眞（まこと）賞を受賞。

###### ■日本藻類学会2021年度特別賞「岡村賞」受賞

日本の海藻学における礎を築いた岡村金太郎博士を記念する「岡村賞」に野田 三千代会長が受賞。目に見えない海の森の存在を、海藻おしば教室で広く啓発した長年の活動が評価されました。

## 5 今までの活動

### 活動の目標・ねらいに対する成果

#### ●海の森の大切さと「海藻おしば」

「海藻おしば」は、浜辺に打ち寄せられた様々な漂着海藻を素材にした「おしばづくり」です。採集した海藻を潮抜きや色ドメ管理を施し冷凍庫で保存します。教室開催の折には常温に戻し、海藻本来の色彩美と造形美を十分に活かすよう材料として提供し、制作した作品を私たちは「海藻おしば」と呼称しています。カラフルで造形美に富む海藻（紅藻・褐藻・緑藻）は、まさに絵の具のような色合いで誰でも楽しく表現することが可能となります。

私たちは、ふだん目にする事の少ない海面下で生きる海藻を通じ「海藻おしば」を創作しながら、海と地球環境保全の大切さを《海の森からのメッセージ》として発信していきます。それは海の環境問題を平易に解説する（レクチュア）と、誰でもできる「おしばづくり」（実技）の二本立てのプログラムが特徴。

「わぁきれい！」という感動が糸口となり、危惧されている地球温暖化への意識を芽生えさせます。

#### 生物多様性に関する取組（生物多様性特別賞の選考の参考とします）

※取組の中で、生物多様性に関するものを記入してください。

- 1:海藻がつくる海の森を始まりとした「餌の餌は何？」をひも解くことで、海藻に始まる食物連鎖を啓発します。
- 2:「光はごはん、海を濁さないで」を基本に、海の中で海藻の光合成を阻害する「ゴミ」の廃棄を警告します。
- 3:ブルーカーボンとグリーンカーボンの違いを説明し、山の森、川、海の森に生きる様々な動植物と人間の生活の関りを紹介し、命の大切さと自然環境の保全の重要性を啓発します。

## 6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

※現在活動休止中の場合でも、今後の活動の見込みや方針について御記入ください。

### 1:指導者養成講座の継続

- ・新規プログラムの研究と指導（海藻万華鏡・海藻ハーバリウムなど）
- ・勉強会の活性化（春の開催：漂着海藻採集をはじめとする実技編と秋の開催：海藻に関する講義開催）
- ・認定講師並びに実技認定講師のスキルUP 促進を図り、いつでもどこでも開催できる体制を構築
- ・教室開催のための器材の充実、漂着海藻採集の定期的開催で素材確保を図る

### 2:教材の充実

- ・展示用標本パネルなどのリニューアル化を図り、海藻の美しさをさらに発信する
- ・DVDやテキスト（小冊子）の改訂版企画と講座の可視化の促進
- ・サイエンスコミュニケーションとしての科学的裏付け確保
- ・海外交流をふまえて英語版ツールの企画・制作

### 3:海藻素材の確保

- ・全国各地に会員による漂着海藻の確保は、周辺の海岸や砂浜に寄せる海藻採集を通じて行っているが、近年、地球温暖化による海水温の上昇で藻場の減少が著しく、海藻素材の確保には各地域の会員の互助精神で融通しあい、年間活動に支障のないよう取り組んでいる

### 4:新規会員の募集

- ・ホームページからの募集を始め、勉強会（毎年春と秋の2回開催）参加者募集時に新規会員の参入を図る

### 5:海外との交流

- ・韓国・ソウルに拠点を持つ「プレス・フラワー協会」（代表:李氏）から海藻おしば活動への協働依頼があった（2019年夏）。数回スタッフが来日し、筑波大学下田臨海実験センターなどで協議を重ねたが、あいにくのコロナ禍が始まり、現在は交流を中断している

### 6:時代の潮流をふまえた目標づくり

- ・SDGsのNo. 14「豊かな海を守ろう」を啓発する
- ・美術館・博物館などでの会員作品を展示する海藻おしば作品展とワークショップの開催

## 7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

### ●最も注目してもらいたい・評価してもらいたい取組

- 1：海藻おしば教室はたんなるモノ作りだけでなく、レクチュアと実技の二本立てのプログラムであること
- 2：カラフルでユニークな形の海藻が持つ「美しさ」を糸口として、環境問題への芽生えを引き出すこと
- 3：目に見えない海の中の海藻がつくる「海の森」を可視化していること

### ●一番成果があがっていると思う取組

- 1：レクチュアと実技の二本立てのプログラムに加え、「ようこそ海の森へ」のDVD鑑賞、小冊子などの活用で、子どもから大人まで誰にでもわかりやすく海の森の大切さを伝えていること
- 2：学校はじめ学童クラブ、またイベントなど室内・室外でも開催が可能なこと
- 3：ハガキサイズの台紙におしばづくり作品を完成させるが、当日は濡れているため渡せない。講師が持ち帰り、乾燥・ラミネート仕上げを施し返送する際に二度目の感動を覚える効果がある

### ●他の団体と異なる自分たちの強み・独自性

- 1：教材の可視化
- 2：地球温暖化を防ぐ「海の森」をつくる海藻と友達になれること
- 3：認定講師の資格審査を行うことと、教材の充実によりどこでも誰でも平準化したワークショップを開催

### ●取組の過程で、どのような努力・苦労があったか

- 1：事前の海藻素材の保存管理には、シーズンも限られており、また時間と労力を必要とするので、年間の活動に合わせた計画性が必要
- 2：講師料・交通費・材料費・ハガキ・ラミネート代など、開催に関する経費の持ち出しが多いのが悩み
- 3：YES 出前講座の場合は、横浜市内に限定されているため、周囲の町からの開催要望に応えられない
- 4：プラゴミの問題が派生しないよう、海藻おしばづくりに使用し海藻を丸くカットする「ストロー」は、環境保全型で廃棄しても土にかえる生分解性ストローを使用している

### ●PRポイントとして

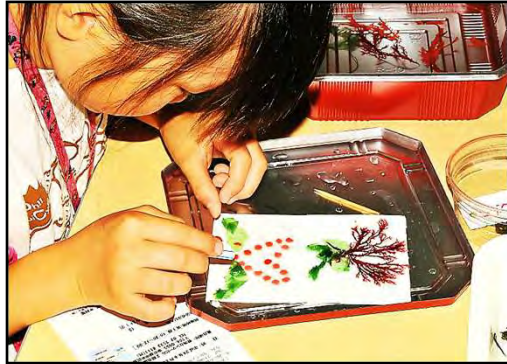
「海藻おしば」は、浜辺に打ち寄せられた様々な漂着海藻を素材にした「おしばづくり」です。採集した海藻を潮抜きや色ドメ管理を施し冷凍庫で保存します。教室開催の折には常温に戻し、海藻本来の色彩美と造形美を十分に活かすよう材料として提供し、制作した作品を私たちは「海藻おしば」と呼称しています。カラフルで造形美に富む海藻（紅藻・褐藻・緑藻）は、まさに絵の具のような色合いで誰でも楽しく創造性を表現することが可能となります。

私たちは、ふだん目にする事の少ない海面下で生きる海の植物「海藻」を通じ「海藻おしば」を創作しながら、海と地球自然環境保全の大切さを《海の森からのメッセージ》として発信していきます。それはスローガン「光はごはん、海を濁さないで」、またキャッチフレーズ「海の中にも森があるのを知っていますか」を問いかけながら、海の問題を平易に解説する（レクチュア）と、誰でもできる「おしばづくり」（実技）の二本立てのプログラムが特徴です。

「わぁきれい！」という感動が糸口となり、危惧される地球温暖化への意識を芽生えさせます。

# 活動主旨

- ・テーマ：「光はごはん、海を濁さないで～海の森も大切に」・親子のエコ未来・森/里/川/海・環境アート&デザイン



- ・取組の要旨：「海藻おしば教室」講座の目的は

- ①海の中にも目に見えない「森」があることを伝え、海への環境への関心を高める
- ②海藻の色から地球環境の歴史を学び、海藻の持つ大切な働きを理解する
- ③漂着海藻を利用し、アート作品づくりを誰でも楽しむことができる
- ④発祥の地、静岡県下田から全国へ自然環境保護の啓発と普及

- ・実績：「漂着海藻」を採集、保存管理し、素材としてカラフルでユニークな形の海藻によるアート作品づくりを楽しむことで、環境問題への糸口としている。また、各種教材は可視化を図り子どもから大人まで理解しやすく、全国一律の内容で活動が可能になった。  
なお、次世代への「指導者養成講座」を毎年2回開催し、現在では30名余の認定講師を育む。

- ・取組として

## 1：環境への貢献

「光はごはん、海を濁さないで」をキーワードに、目に見えない海の森の存在を知り、海と陸のつながりを学ぶ

## 2：社会・経済への貢献

地球環境の歴史を知ることで、「地球温暖化」による異常気象などの現象がわかりやすく理解できる

## 3：地域資源の活用

地域沿岸の海藻を材料とすることにより、生息する海藻や魚類の違いから、地元の海の大切さが実感できる

## 4：普及・汎用性

DVDや小冊子などを可視化することで、全国一律のプログラムで開催可能になり、汎用性が効果を上げている

## 5：革新・ユニーク性

これまでの学術的な「海藻標本」を改良、「美」を基準に海藻おしばを創案し、環境教育に活用した創造性

## 6：継続性

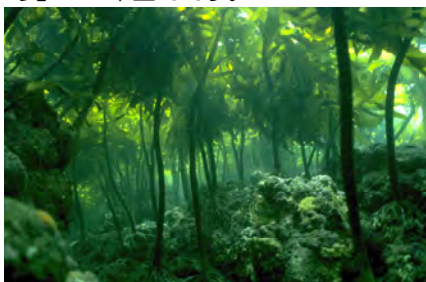
日本各地での開催を目標として、指導者養成講座を15年余継続し、現在では30人の指導者を養成

# 海藻おしば協会のプロフィール

## ①概要情報

海の森の大切さと  
「海藻おしば」

「海藻おしば」は、浜辺に打ち寄せられた様々な海藻を素材にしたおしばです。海藻本来の色彩美と造形美を十分に活かすよう材料として制作したものを私たちは「海藻おしば」と呼称しています。私たちは、ふだん目にすることの少ない海面下で生きる海藻を通じ「海藻おしば」を創作しながら、海と地球環境保全の大切さを《海の森からのメッセージ》として発信していきます。それは海の問題を平易に解説し、誰でもできる「おしばづくり」の二本立てです。



静岡県下田沖水深5mの海中林



環境・社会・経済の総合的な視点で健全な未来の地球を目指すべく2015年9月に国連で193ヶ国により採択された「SDGs」の目標14「海の豊かさを守ろう」に賛同し、その運動への参画と啓発促進告知ポスター

海藻おしば協会

## ②沿革

海藻おしばの誕生は  
筑波大学  
下田臨海実験センター

静岡県下田市にある筑波大学下田臨海実験センターで海藻の生理生態学の第一人者の横濱康継教授（故人）とその研究補助を務めたグラフィックデザイナーの野田三千代が、従来の学術標本の域を超えた、美しい海藻おしばを創案。

誰にでもできる海藻おしばづくりと、海の森のお話をセットにすることで、ワークショップとしての「海藻おしば教室」を立ち上げました。2004年に協会を設立。以後、国内外を問わず活発な協会活動を継続しています。



筑波大学下田臨海実験センター



従来の海藻の学術標本

横濱教授と野田が創案した海藻おしば標本

【参考例の海藻は紅藻のタマイタダキ】

## ③受賞歴

環境大臣特別賞

平成22年岐阜県・関市で開催された第30回「全国豊かな海づくり大会」で、「海藻おしば教室」を長年にわたり継続し、海の自然環境の大切さを啓発してきた野田三千代が「環境大臣特別賞」を受賞しました。



大臣（写真中央）からは、「この取組はすばらしい！」とのお言葉を頂きました。

日本自然保護協会  
第12回沼田眞賞受賞



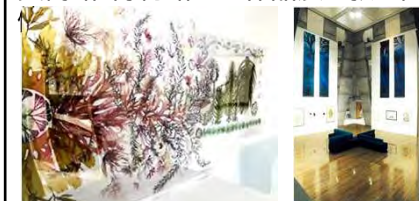
自然環境保全に貢献した個人・団体に贈る2013年第12回沼田眞賞を受賞。写真右は、現九州大学の清野聡子教授。

日本藻類学会2021年度特別賞  
「岡村賞」受賞内定

日本の海藻学における礎を築いた岡村金太郎博士を記念する「岡村賞」受賞内定に野田三千代会長が選定されました。

## ④その他

美術館・博物館での作品展&教室開



瀬戸内国際芸術祭

黒部市国際文化センターコラーレ

海藻おしば作家でもある野田会長並びに会員による作品展&ワークショップを企画し、各地の美術館や博物館での開催で、「海の森」をテーマに自然環境保全の啓発を促進しています。

海藻おしばで国際交流の促進



左は豪州でのASPAB2007参加時の新聞報道。右は日韓交流研修時の記念写真

海藻おしば協会は2007年豪州・メルボルンのワーンブル大学水生植物学会での講演と作品展・ワークショップを開催。2010年名古屋市でのCOP10参加、2019年には韓国プレス・フラワー協会からの打診を受け、筑波大学下田臨海実験センターでレクチュアとおしばづくりを体験、今後の日韓における海藻おしばでの交流を協議。



### ①-1 基本プログラム紹介

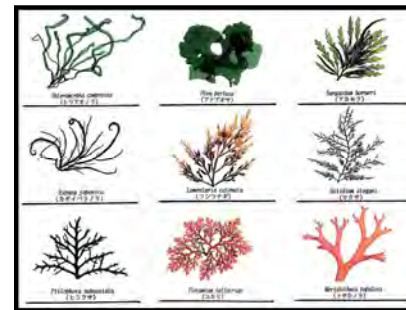
日程	内容
2~3ヶ月前	・事前打ち合わせ:日時・教室・レクチュア・実技教室の現場確認
開催日前迄	・パネルや器材・DVD・小冊子・ハガキなど対象先に送付 ・ハガキにクラス・名前・メッセージを事前に記入
開催日前日	・パネル展示・器材など前日作業
開催当日	・海藻素材などの最終準備・始まりの式 ●レクチュア=(海のお話など):約 45 分 ・海藻のお話「ようこそ海の森へ」DVD鑑賞・海藻おしぼの作り方DVD鑑賞 トイレ休憩・教室移動 ●実技=(はがき 1 枚の作品づくり):約 45 分 ・使用海藻の説明・作品参考例紹介など ・作品回収・児童感想・終わりの式
1 週間以内	・作品仕上げ・乾燥・ラミネート仕上げ⇒学校へ返送
2 週間以内	・実施報告書作成

打診から開催までの工程表(想定)

### ①-2 レクチュア会場の展示と実技会場の器材と海藻素材



会場全景 カラフルな海藻標本や食べられる海藻標本パネルも展示



基本9種類の海藻素材説明シート

- ・上左から 順に右へ
- ・ヒラアオノリ・アナアオサ・アカモク
- ・カギイバラノリ・フシツナギ・マクサ
- ・ヒラクサ・ユカリ・トサカノリ

### ①-3 教材の紹介(DVD・小冊子・三つ折りパンフなど)

**DVD「ようこそ海の森へ」映像抜粋**

DVD「ようこそ海の森へ」(約11分)抜粋

**小冊子「ようこそ海の森へ」抜粋**

配布資料 小冊子「ようこそ海の森へ」(180×190cm・20P)

配布資料 海藻おしぼの作り方(三つ折りパンフ)

**おしぼづくりの手ほどきDVD(ダイジェスト)**

DVD「海藻おしぼの作り方説明」(約6分)抜粋

## ②-1 レクチュア(海藻について・海の森のDVD鑑賞)



最初のレクチュアは標本パネルなど使って海藻と海の森のお話



身近な海藻を紹介



知っている海藻の名前クイズ



大型標本で解説

### DVD鑑賞



講師の話聞きながら、熱心にメモを取る児童たち



「ようこそ海の森へ」鑑賞後、海の中の海藻の動きを表現



海の森の大切さがわかりましたかの問いに手をあげる児童たち

## ②-2 実技(ハガキ1枚のおしぼ作品づくり)



材料は基本9種類に+α



生徒数が少ない場合の作り方指導



楽しいおしぼづくりは、誰もが夢中で無口になります



海藻は形のある絵具。誰にでもできる素敵な作品が出来上がります



完成した作品の回収



早く出来た児童は小冊子を読んで復習

### ③ 作品の仕上げ、参加者へ返送

レクチュアと実技を終了し、完成した作品は講師が持ち帰り、乾燥・仕上げ・ラミネート加工をほどこし、参加者あるいは学校へ1週間以内に返送します。学校では廊下などで作品展示をしているようです。

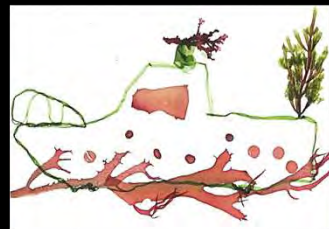
## 子どもたちの創造力いっぱい 楽しい作品が出来上がりました！



海で遊び、海に楽しみ、海を大切に  
地球守り隊 エコ宣言  
おたいは、魚や、電気は、  
すぐに消しますゆ  
電気のただっかに  
気をつけます。



海で遊び、海に楽しみ、海を大切に  
おしはは、きれいにできた  
夏休みに海に行くとき  
は、海をよごさないで、楽  
しく遊んでね！！ by 10年前の  
（財）日本海洋レジャー安全・振興協会  
〒231-0011 横浜市中区太田町4-47 <http://www.kairekyo.or.jp/>



海そうおしは「協会のマスコット」  
ぼくは、海にあんな森があるんだと  
おぼえていました。世界には、こんな  
かおそくがあるかなと思いましたが、  
ぼくは、友達わかめをひらひらかま  
した。いいおしは「かてきたらいいな」と  
思います。  
4年3組 [ ] 子

# ●会員のスキルUPを目的とした指導者養成講座：年2回開催

## ●春(静岡県伊豆高原と南伊豆海岸／実技編)

毎年、春5月から6月にかけての大潮の時期を選んで、伊豆半島・伊東市にある大田区立伊豆高原学園研修センターを拠点に、1泊2日の予定で開催します。

1日目は漂着海藻採集。東海岸の漁港や南伊豆の海岸まで移動しながら、打ち上げられた海藻を採集。海藻おしばの素材造りは大切な基本作業となります。

採集した海藻の保存・管理の習得、おしばづくりの作品の仕上げ、乾燥、ラミネート作業なども学びます。

全国各地の会員、はじめての方など、毎回20名前後が参加し、会員間の交流も行っています。



東伊豆や南伊豆の海岸・漁港などでの漂着海藻採集



採集海藻の分類や色ドメ作業



実技でのポイントを学習



作品の仕上げなども体験



南伊豆達ヶ浜で記念撮影

## ●秋(東京海洋大学品川キャンパス／レクチャ編)

毎年、10月から11月にかけて開催するレクチャ編の勉強会は、東京品川にある東京海洋大学品川キャンパスを舞台に日帰りを実施します。

海藻おしば教室のレクチャは、海の森の大切さを子どもたちにわかりやすく説明できるよう、スキルアップを図るための講座です。

ゲスト講師には、藻類関係の研究者を軸に、海藻の奥深い話題や、研究の苦労話などを交えながら有益な時間となり、参加者にも好評を得ています。

また、認定講師資格試験も希望者があれば開催し、現在20名が合格しています。



特別講座では充実した海藻や海の世界について学びます



藻類研究の先生の講話は



認定講師の活動事例紹介



韓国ソウルからも参加者



認定講師合格者も誕生

## ●博物館などでの海藻おしば作品展示



瀬戸内国際芸術祭  
(作品：野田会長)



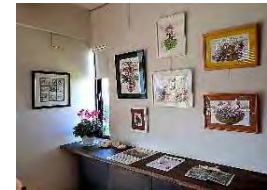
タバコと塩の博物館  
(作品：野田会長)



群馬県立自然史博物館  
(作品：野田会長)



港区浜松町エコプラザ  
(作品：野田会長)



藤沢ピープルファクトリー  
(作品：高山認定講師)



長谷寺一番館ギャラリー  
(作品：吉川認定講師)

# 海藻おしば協会 フローチャート



横浜市金沢区立能見台小学校5年1組対象～YES環境教育出前講座

海の森からの贈り物

# 『海藻おしば教室』

～ブルーカーボンってなんだろう～実施報告書



楽しみにしていた楽しいおしば作りに夢中になる児童たち

## ■開催概要

- 開催日時: 2021年10月19日(火) 午後9時35分～11時25分
- 開催場所: 横浜市金沢区立能見台小学校 理科室  
(横浜市金沢区能見台3-32-1)
- 主催: 海藻おしば協会 神奈川支部
- 協力: 横浜市温暖化対策統括本部・YES(横浜エコスクール)
- 指導: 海藻おしば協会  
認定講師: 高山 優美 / 実技認定講師: 永島 美保  
/ 事務局: 尾澤 征昭
- 体験参加者: 能見台小学校5年1組 35名



先生の作品

児童たちの作品例

## ●開催概要

横浜市温暖化対策統括本部が温暖化対策啓発活動として推進する横浜エコスクール出前授業「ブルーカーボンってなんだろう？～海藻おしば教室」の今年度第4回目の教室が2021年10月19日(火)に横浜市金沢区立能見台小学校5年生1組35名を対象に開催された。

今回はコロナ禍による開催日変更や学校の使用教室の都合で開催時間の変更などがあったが、学校との調整で無事開催することができた。5年1組担任の吉山先生の児童への海藻おしば協会ホームページの閲覧なども熱心に行われたこともあり、児童たちも今日の教室開催を楽しみにしていた。

高山認定講師によるレクチャアも、神奈川県下の海に生息する海藻の種類当てクイズからスタートしたものの、海の森の大切な働きを訪ねたところ、児童たちは手を上げて次々と答えるほどの事前学習には驚いてしまった。続いて「ブルーカーボン」の話、食品としての海藻の使われ方などを紹介。最後に使用する海藻は、浜辺に打ち上った漂着海藻を使っていることなどを説明した。まとめとして、海の中の生きものたちの食物連鎖と、それを支える光合成の大切さを伝え、川の水が海に出ていくことを伝え、川にゴミを流すと海が汚れ、海の植物「海藻」に大切な光が届かず、生き物たちは食べるものもなくなることを伝えた。続いてDVD「ようこそ海の森へ」を鑑賞。海藻や海の森の働きを学んだ。最後に海藻にとっては「光はごはん」というテーマで、海を汚さないようにしましょうねと結んだ。2時限目と3時限目の休憩間を使い、これまでのレクチャーの振り返りをタブレットを使って写真を撮ったりノートしていく児童たちの熱心さに驚いた。

レクチャーの後は、いよいよハガキ1枚のおしばづくり。まずは2グループに分けておしばづくりの手ほどき。その後今回用意した10種類の海藻素材を使って、思い思いの作品作りに夢中になって黙々と手を動かしていた。作品づくりを終えたこども達は、アンケートや感想を書き、提出してお土産の隆起印刷で造った海藻おしばのシオリを嬉しそうに受け取っていた。



YESとともにSDGsNo.14の「豊かな海を守ろう」のポスターも掲示



はじめての体験者に参考作品も展示した



会場となった理科室全景。大型モニターも配置



海藻標本などを展示し、色と形の面白さを伝えた



海中の深さにより生育する海藻を紹介するパネル

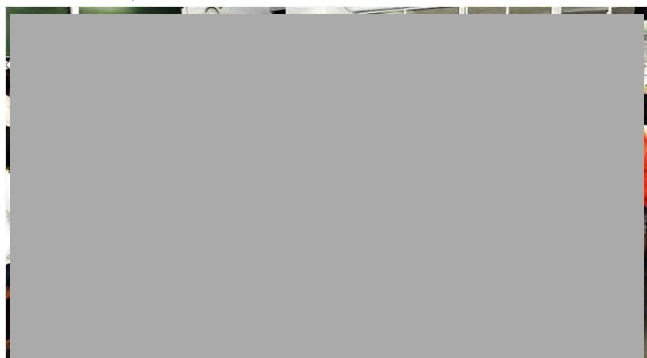


使用海藻は今回は10種類。神奈川県で採集された海藻も含めてカラフルな色合いを用意した

# レクチュア「海の森を大切にしよう」の初めはクイズから



レクチュアの最初は地元神奈川県に生息する海藻の種類数を当てるクイズ。実際は約380種類、だが知っている海藻名としてあがったのは、ノリ、ワカメ、コンブ、ヒジキ、海ブドウ、メカブなど6種類だった。



レクチュアの最後はDVDの鑑賞(概要は下の画面)。



ブルーカーボンの話や、陸の森と海の森は川でつながっていることも説明。ゴミを捨てない出さないことを啓発した。

## DVD「ようこそ海の森へ」概要(上映時間11分)



タイトル



海の森の紹介-1



海の森の紹介-2



海の草原



目に見えない海の森  
植物プランクトン



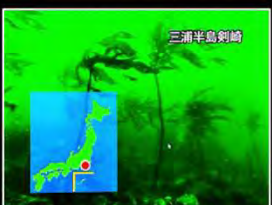
海藻の種類



食物連鎖



各地の海の森紹介



各地の海の森紹介



海の森の消失



磯焼け



エンドタイトル

DVDでは、ふだん海中で見ることのできない海の中にも森があること。その森をつくっているのが海藻であること。その海の森が多くの海の中の生きものたちの命をつないでいることなどをやさしく解説しながら映像を楽しんだ。



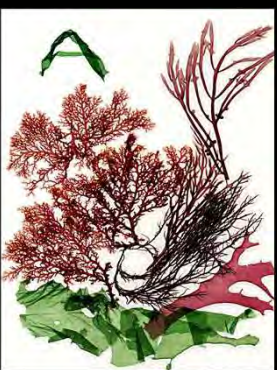
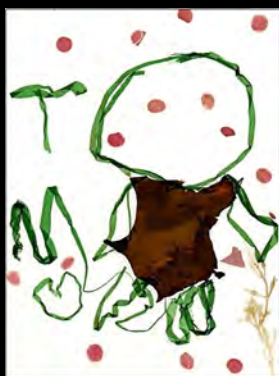


## ハガキ1枚のおしばづくりを楽しみました！

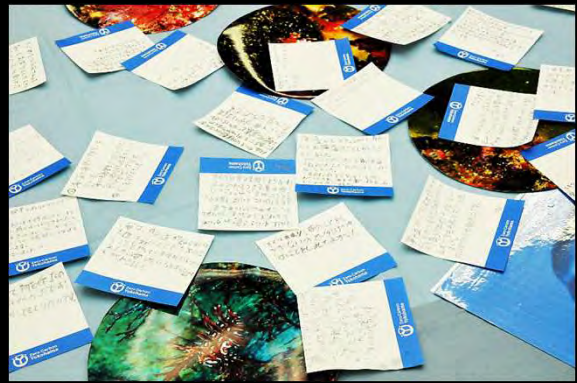
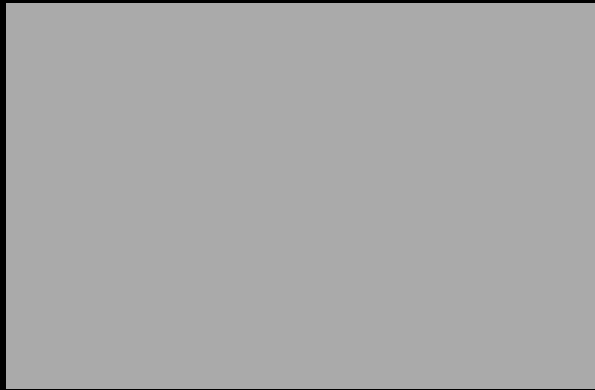


おしばづくりが始まると教室はシーンとなります。児童たちは好きな色の海藻を使って想像力豊かに作品づくりに夢中です。次々と見事な作品が完成していきます。

可愛い作品が完成しました！（児童たちの作品抜粋）  
これからは、光は海藻のごはん、海をにごさないようにしてくださいネ！



先生の作品



## 教室が終わって感じたことのアンケート

(作品を作り終わった参加者に、一言コメントを記入してもらいました)

- ・初めて作品を作ってちょっと難しくて苦戦したけど、すごく楽しかった。
- ・今日初めて海藻の種類が横浜だけでも380種類もあることをしりとてもビックリしました。また海藻を使ったアートはなるべくかさならないように広げることを頑張りました。とても楽しかったです。
- ・海の森には海藻がいっぱい立ってその海藻は酸素を出す役割があるなんてびっくりしました。
- ・私は海藻の種類があんなにあることが分かりました。二酸化炭素で海藻が育つことが分かりました。すごく楽しかったです。
- ・初めて知った。海藻ははじめてみだし可愛いカードを作れてよかったです。
- ・海藻と海草の違いを知った。海の植物の方がたくさん二酸化炭素を吸っていることがビックリした。
- ・海の森を知れました。海藻のことはあまり知れていなかったけど、海藻などの種類がいっぱいあってビックリしました。海藻の役目があって詳しくわかってよかったです。
- ・今日は動画などで海藻のことがよく分かりました。押し葉を作るのは意外と大変でした。打ち上げたものを使っているので環境破壊にならないと思いました。
- ・海の森は魚に取って大切な場所(隠れ家)なんだなと思いました。押し葉づくりは楽しかったけれど少し難しかったです。またやりたいです。楽しかった～～！
- ・今日海藻おしば協会出前授業をやって楽しかったです。海藻のありとあらゆるものを知りました。最後に海藻おしばの海藻を使って蛇などアートを作って楽しかったです
- ・私は、海藻には大きく分けて3つのグループがあるのを初めてしりました
- ・海も自分の生きるための1つだとしり守りたいと思いました。海藻でまた押し葉を作りたいです。
- ・海藻のことをよく知れたのでもっと海を大事にしようと思いました！！・こんなすごい人達がきていろいろな事を教えてもらってうれしかったです。そのなかでも一番に残ったのは色とりどりの海そうを見たことです
- ・私は、海藻がなんで赤いかを知って面白かったです。なぜなら海藻もいろいろ工夫していることが分かったからです。
- ・海藻のおおまかな種類がよく分かりました。作品づくりとても楽しかったです。
- ・海藻で作品を作るのは初めてだったのでとても難しかったけど楽しかったです。おしば協会の皆さん今回はいろいろ教えていただきありがとうございました
- ・僕はおしばをしたことがなくとても面白かったです。難しかったです。もう1度してみたいです。
- ・海の森がどうして大切かがよく分かりました。なので大切にしたいです。海藻にもオス・メス。色が主に3グループもあってすごいと思いました。おしばづくりも楽しかったです。
- ・おしばづくりがとても楽しかった。楽しかったのは目をくりぬくところと魚を作るところです。とてもうれしいです。
- ・私は今日、初めて作品を作りました。いろんなくふうをしたりして、楽しかったです。
- ・かいそうでおしばをやってみてすごいたいへんでした。けれどもじょうずにできているといわれてうれしかった。またやってみてうまくやりたいです。
- ・ぼくはあまり海のことをしらべてないので、今日かいそうのことをしれてよかった。
- ・かいそうおしば教室からいろいろなことが知れました。日本にたくさん海藻があること、海藻の役割などをたくさん知れました。少し海藻に興味を持ちました。
- ・海藻おしば協会の人たちに海藻のことを教えてもらいました。特に心に残ったことは、海藻のもりがだんだん減っている事でした。海の森がなくなっているので私たちも海を大事にすると改めて思いました。
- ・初めて海藻でものを作ったのでとても楽しかったです。うみについてもしりたいです。
- ・二酸化炭素を減らすには陸の森だけでなく、海の森を大事にすることがわかった。
- ・海は、自分達が知らないうちに地球にとってもためになっていることをやっけてそれが減りつつあるから守りたいなという気持ちがわきました。
- ・海の森が消えているのでごみをポイ捨てしないと改めて思いました。
- ・これからも海藻を守るために私は海を守ります。ごみをふやさない！海のことを知れたのでこれからも海をだいにします。
- ・海藻は環境問題などにもかかわるので海を大切にしたいです。
- ・私は海のためにごみを少なくしたいなと思いました。・ごみをポイ捨てしないこと！きちんと分別をする。
- ・これからはかいそうを守るために私が知っていることを少しでもいろんな人に伝えたいと思います。